

3 年生

科目名 (科目責任者)	授 業 概 要
看護のマネージメント (吉田 礼子)	<p>看護ケアのマネージメントと、組織（サービス）のマネージメントの両面についての理解を深めるとともに、チームの一員として、看護実践の場において個人としてのマネージメントを積極的に行い、自己を生かし組織の目的に貢献できる力を伸ばすことをめざし</p> <p>にアサーティブトレーニングを取り入れた。授業評価はおおむね良好だが、グループワークの時間が十分とは言えなかったため、マネージメントに必要な力の育成のためのワークについて工夫する必要がある。</p>
災害看護と国際看護活動 (淵田 明子)	<p>災害直後からの支援を含め災害時における看護について学習すると共に、発展途上国での看護活動、共通課題に対する国際的取り組み、災害時の国際協力など看護の国際活動についての認識を深め、グローバル化された世界における看護活動の未来について考える。今年度は震災後を取り扱った DVD などを活用した結果、災害に対する支援についての視野が広がったと捉えている。今後は、災害時における専門職として社会的に期待されている役割を理論的に考えられるようにすることが課題である。</p>
成人看護学実習 (丹澤 洋子)	<p>看護の対象としての成人を理解し、その対象に応じた看護実践を通して成人看護の特徴を学習することを目的とする。</p> <p>中核目標①各健康レベルにある成人の特徴を理解し、その対象が直面する健康問題およびその解決に向けた看護の特徴を理解する。②対象に応じた看護が展開できる。③医療チームにおける看護の機能を理解し、自己の役割を認識し行動できる。④対象への看護を通して、自己の看護観を養う。</p> <p>実習評価の問題発見・解決能力と自己の看護観の項目において、昨年度よりも「達成できた」と評価した割合が増加した。これは本実習の目標に含まれており、目標達成への効果的な学習が実施されたと考える。今後も、事例のまとめに於いて、患者の看護の評価や意味づけを充実させることで、成人期の患者への看護に対する看護観を深めていく。</p>
老年看護学実習 (鈴木 陽子)	<p>老年看護学実習の目的は「老年期にある対象の理解と自立した生活を支援するための看護の役割を理解する。」である。介護老人福祉施設実習では介護老人福祉施設における高齢者の特徴と高齢者を支援する職種間の協働・連携について理解する。病院実習では、「疾病を持ち治療過程にある高齢者の特徴と療養状況に応じた看護の実際から、看護の役割を理解するとともにソーシャルサポートシステムを理解する。また、高齢者の生活の場を通して、QOL を高める援助を実践する。」</p> <p>介護老人福祉施設実習では、介護保険法等の制度やサービスの理解が課題であり、事前学習の強化と施設オリエンテーション実施後のレポート作成を課題としたことは学習効果があった。病院実習においては、高齢者のフィジカルアセスメントとソーシャルサポートシステムの理解が課題であり、事前演習や実習中の受け持ち対象者を通しての学習支援を今後も強化していく。</p>
小児看護学実習 (淵田 明子)	<p>小児の健康問題を総合的に判断し、健全な育成をめざして小児及び家族に対して個別的な看護が実践できる基礎的能力を養う。①健康を障害された小児の入院生活場面から、病気及び入院が成長・発達に及ぼす影響を考える。②疾病の経過に沿って必要な援助を考え実践できる。③母子相互のニーズを把握し、</p>

	<p>家族参加の必要性を認識する。④小児保健医療チームにおける看護職の役割と責任を理解し、協力できる能力を身につけることを学習する。今年度は、「小児の成長発達段階の理解」「小児の成長発達に応じたコミュニケーションがとれる」「人的環境の一部を担っていることの自覚」の項目で評価が高くなっていった。これは小児看護を理解するときに大切な項目であり効果的な学習ができたと考える。今後はさらに目標達成状況が明確化できるよう評価表の改変を行い指導に活かせるようにすることが課題である。</p>
母性看護学実習 (望月 好子)	<p>「周産期の対象理解、看護過程の展開、母性看護に必要な知識・技術・態度の学習、生命の尊厳や母性について自己の考えを深める」ことを目標に、付属病院周産期センターにて2週間(2単位)の実習を実施した。「課題レポート」および「周産期の特性と看護に関する必修事項のまとめノート作成」を事前学習として提示し、例年通り実習初日に発表会を実施、実習へのモチベーションを高めた。病棟での褥婦の受持ち期間は、2～4日程度であり、タイムリーな看護展開はやや難しかったが、MFCIU、外来、NICU等で多くの対象に接し、周産期の特性と看護への理解を深め、生命倫理観・看護観・人間観を深めることができた。次年度も同様に進めていく。</p>
精神看護学実習 (吉野 由美子)	<p>精神保健上の問題を抱える対象が、その人らしくその問題解決ができるように関わりながら精神看護の機能について学ぶ。対象理解を深められるよう意図的な患者選定と指導により、明確な看護の方向性をもち実践し、対象の健康状態の好転を実感することができた。また、デイケアや就労支援B型事業所、福祉施設の見学などを可能な限り取り入れ、カンファレンスで学びを共有することで、社会の動向を踏まえ地域生活を支える看護のあり方について考える機会を持つことができた。実習での体験を意味づけ精神看護についてそれぞれの学生が考えを深められるようにカンファレンスや課題レポートの提示方法の工夫などを取り入れていくことが課題である。</p>
在宅看護実習 (中田 芳子)	<p>在宅療養者とその家族の多様性と個別性を理解し、看護の役割と他職種との連携について学習する。また、外来看護の役割と特徴を理解し、施設内看護と在宅看護の連携と協働の必要性及び看護の役割を理解することを実習目的としている。他の基礎看護教育機関では在宅看護実習で訪問看護ステーションでの実習を長期間実施することが多い。本学では実習施設として、東海大学医学部付属病院の外来、入退院センター及び東海大学湘南健康推進室での実習が可能である。学生は、病棟、外来、入退院センター、訪問看護ステーションとの連携をダイナミックな視点で捉えることができている。また、湘南健康推進室では、学生や教職員に対する健康の保持増進に向けての看護活動に関する視点を学ぶことができている。したがって、次年度以降も今年度と同様の実習形態を継続していく。また、次年度より入退院センターでの一日間の実習を行うことになった。</p>
統合実習 (吉田 礼子)	<p>実習目的は「看護チームの活動に参加し看護実践能力を高めるとともに、これまで学んできたことを統合して看護の本質を考え、看護活動に活かすことができる」であり、とくに看護ケアのマネジメントについて学ぶこと、チームとの連携を考慮して看護を計画・実践すること、学んできたことを統合して看護の本質について考え看護活動に活かすことを重視し、看護チームの活動に参加しながら受け持ち患者の看護の展開を求めた。受け持ち患者看護とチームの看護活動との調整に難しさを感じる声は続いているが、看護の本質について深</p>

<p>く考えるとともに、チームの大切さを感じるなど、まとめにふさわしい実習であったという声もあり、授業評価としてもおおむね良好であった。実践と結びつけた看護の本質について学生の考えを促進するにはさらなる検討が望ましい。</p>
